

# いのちと地域を守る

## 災害時役立つ製品続々 仙台市が紹介冊子

### 考える

東日本大震災を教訓に、災害時に役立つ生活用品や食品などの開発が進んでいる。仙台市はこのほど、仙台圏などの企業が製造販売する災害関連商品を集めた冊子「防災・減災コトモノがたり」の第2弾を発行した。被災地発の多彩な商品が並ぶ冊子を基に「防災ものづくり」の最前線を紹介する。

## 25%軽く履き心地快適

### 作業用ゴム長靴

弘進ゴム (仙台市若林区)

震災後、被災家屋の片付けや復旧工事などで作業用長靴の需要が増した。仙台市若林区の弘進ゴムは、より快適な作業用靴を目指し、従来品より25%軽い「ライトセーフティLSB-315」を開発。2017年2月に発売した。



軽量化を図った「ライトセーフティLSB-315」。足にフィットする形状も追求した

なる軽量化に挑戦したい」と強調する。

樹さん(36)は「履き心地を改善することで長時間作業する人の疲労が軽減され、作業効率も上がる。ノウハウを生かし、さら

## 携帯40台フル充電可能

### 非常用電源装置

パルックス (仙台市若林区)

非常用電源装置「E.P.Smobilie」(イーピーエス・モバイル)は、軽くて持ち運びに便利なのが特長だ。照明器具などを扱うパルックス(仙台市若林区)が16年10月から販売。重さ約11kg。女性でも片手で持てる。出力400Wで連続1時間使用可能。ノートパソコンなら5台同時に4時間使える。携帯電話は約40台をフル充電できる。



「E.P.Smobilie」(下)と「E.P.SmobilieMINI」

昭さん(53)は「消火器や自動体外式除細動器(AED)のように多くの人が集まる場所での活用

を想定する。価格(税別)は80万円。小型の家庭用「E.P.SmobilieMINI」は18万円。連絡先はパルックス022(2)60005

## 水を入れて10分で完成

### 即席米粉餅

菅原商店 (宮城・加美)

即席米粉餅「安心君」は水さえあれば作れる非常食。米粉製造販売の菅原商店(宮城県加美町)が12年に商品化した。自治体や企業、町内会の備蓄品として活用を呼び掛ける。



非常食米粉餅「安心君」の作り方を実演する菅原社長と啓子さん

と妻啓子さん(59)は「水を増やせば重湯にもなる。赤ちゃんからお年寄り、アレルギーの方も商店0229(63)2646

安心して食べられる」とアピールする。価格(税込み)は1食20円で2年間保存できる。連絡先は菅原商店0229(63)2646

### 伝える

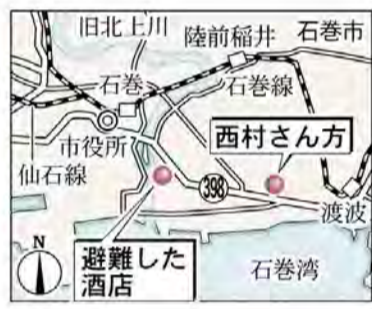
2011.3.11

石巻市鹿島南3丁目の市立中講師西村繁美さん(48)は、音楽教室を開いていた自宅で東日本大震災の強い揺れに襲われた。長女を迎えに行こうと母と2人で車で移動する途中、津波に遭い、車と流された。車外に脱出し、近くの店舗には上がりかけて命拾った。



西村繁美さん

## 濁流にもまれるも九死に一生 (石巻市)



震災発生直前、自宅の前で知人と話をしていた。突然、大きな揺れが始まり、しばらくの間、道路に座り、揺れが収まるのを待ちました。辺りは停電。道路には亀裂が走っていました。余震が続く中、外出していた母(70)が帰宅。大崎市の中高一貫校に通っていた当時中学1年の長女(20)のことが心配になり、迎えに行こうと食料や水、ラジオ、着替えなどを車に積んで母と一緒に家を出ました。

## 津波避難車は控えて



津波で浸水し、車なが流された石巻市鹿島南地区。2011年3月11日夕(西村さん提供)

「津波が来た。そう思った瞬間、とっさに道路右手の新聞販売店の敷地を方向転換しました。すると今度は前方から真っ黒な水が押し寄せてきました。車は前後から挟まれた津波で浮き上がった。の道を通れ」と忠告してくれただのに、私たちは海側の国道398号を走り抜けました。「津波が来た」と忠告してくれただのに、私たちは海側の国道398号を走り抜けました。車は前後から挟まれた津波で浮き上がった。の道を通れ」と忠告してくれただのに、私たちは海側の国道398号を走り抜けました。

九死に一生を得た経験を教訓に、今後、津波の恐れがある時は車で移動は控え、歩いて避難所に避難したいと思えます。

## 避難所としての学校体育館 寒さ対策推進不可欠

菅原 正則さん

東日本大震災の発生直後の2011年3月11日午後3時ごろ、仙台管区気象台が観測した仙台の気温は4.8度で、それから24時間以内に記録した最低気温は氷点下だった。私は大学の研究室で被災し、徒歩で青葉山を下りて自宅に向かった。雪がちらついていて、電気・水道・ガスなどのライフラインが途絶え、私たち一家は自宅近くの小学校

校体育館に身を寄せ、生まされて初めて避難所で夜を過ごす。寒さ、体育館の床の硬さ、ほこりっぽさが心に耐えられず、翌日から自宅に戻ったが、しばらくの間、最低レベルになる。避難所暮らしを何カ月も過ごした被災者は、49回、このうち東日本大震災は、大人2人が横になれる

### 探る

宮城教育大教授



すがわら・まさなり 東北大学工学部卒、東京工業大学大学院博士課程修了。1級建築士。札幌市立高等専門学校を経て15年4月から現職。16年10月から半年間、ディキーン大・オーストラリアで、客員研究員を兼任。専門は建築環境工学。熱環境。奥州市出身。49歳。



東北の厳冬期を避難所で過ごす過酷な事態が起きないという保証はない。避難所の防寒対策を進めることも、震災から私たちが学んだ教訓ではないだろうか。

### 現場から

#### 火災想定し実践的な訓練

クリスロード商店街振興組合 山崎浩之さん(69) 昨年、仙台市青葉区のアークード街にある名掛丁、クリスロード、おおまちの3商店街でつくる中央通り連合会で、火災を想定した避難訓練を行いました。



山崎浩之さん

東日本大震災から6年以上がたち、災害に対する危機意識が弱くなりかけている中、災害に強い商店街を目指して企画しました。9~12月に座学、実動訓練、市消防局による消防訓練の3部構成で実施しました。商店街で発生する火災に備えるだけではなく、避難誘導など一連の訓練は、地震など他の災害時にも役立ちます。今後も連合会や各商店街、ビル単位で多様な訓練を実施したいです。

#### 要援護者支援の地図製作

いわき市沼ノ内行政区長 遠藤欽也さん(73) いわき市沼ノ内地区は市の想定で住宅のほぼ全てが津波浸水区域にあり、高齢者ら要援護者の避難誘導が課題です。昨年9月、車による避難を要援護者ら



遠藤欽也さん

に限って容認した市が初めて行った車避難訓練に参加。18台が高齢者らに乗せて内陸の高台を目指しました。今は東北などの協力を得て、要援護者への声掛けの担当や避難経路などを隣組ごとに書き込むマップ作りに取り組んでいます。東日本大震災を経験した行政区役員がいなくなっても地域の防災意識が持続できるよう、住民一人一人に行動する意識を持ってもらうのが目指す方向です。